

第2回「協同農業普及事業に関する意見交換会」における主な御意見

1 「普及指導活動の課題と方法」関係

(1)「基本的な課題」について

- ・ 農業者を支援する様々な組織・機関がある中、農業者の技術向上の部分は普及指導員の本来業務であり引き続き期待。
- ・ 新規就農者の定着には、技術、経営の両面でのサポートが重要であり、公的機関である普及指導組織を中心としたサポートを期待。

(2)「活動方法」について

- ・ 技術の伝達にとどまらず、技術・経営・地域農業等の幅広い視点を持ちながら、他機関とイノベーションを協働・創造していく場をマネジメントしていく必要。また、多様な関係者・技術をつなぐ「知識通訳者」としての役割を担う必要。これらの役割を普及組織内のチームとして担うべき。
- ・ 新規参入者などにおいては、普及指導員が各種表彰に推薦していただける面や、幅広く様々な情報を提供してくれる面にも期待している。
- ・ 普及指導員にはファシリテーターとしての役割を強化してほしい。
- ・ 普及指導員として、地域農業の課題を把握し、産地としてどのような未来を描いているのか把握することが重要。地域課題や状況を可能な範囲で公表することで、全国展開の企業から解決策の提案を受けるなど外部の資本を地域に呼び込むことも可能。
- ・ 新しい技術が出てくる中、全ての技術を追うのは困難。

2 「普及指導員の配置」関係

- ・ 中間層が非常に手薄。管理職になった普及指導員は現場に来られなくなるが、若手も多く業務に追われて現場に行けないことが課題。また、担当が頻繁に変わるため、地域の主要品目も十分に理解できない印象。
- ・ 若手の普及指導員がベテラン農業者からの信用を得るのは難度が高いため、経験のある普及指導員と組むなど配属に配慮も必要。

3 「普及指導員の資質の向上」関係

- ・ 人材育成に力を入れていくべき。
- ・ 人材育成に力を注げない環境は問題。革新支援専門員の機能を強化し、人材育成を担う中核とするべき。また、ファシリテーション能力が非常に重要。普及指導員は、現場に寄り添った農業者の目線で活動ができる一方、公的な機関として第三者目線で活動を行うことができるからこそ地域のかじ取りが可能であり、そのような特徴を明確に打ち出すことが必要。
- ・ ベテランの普及指導員をOJTとして活用するべき。研修を充実させることも重要だが、現場に出ることが一番大事。普及活動やOJTには、デジタル技術を活用できるのではないかな。
- ・ 以前は集落の農業者と懇親の場も多くあったが、今は難しい。若手のコミュニケーション能力を強化する必要。

4 「農業者研修教育施設における研修教育の充実強化」について

- ・ 新規就農者の確保が喫緊の課題となる中、将来の農業の担い手を育成する農業大学校等から、社会人経験者も含め、一人でも多くの新規就農者を輩出する必要。
- ・ 基礎的な栽培知識・技術習得に加え、スマート農業、有機農業等、経営管理、輸出等に関する教育の強化やそのために必要となる機械・設備の導入、施設の整備が必要。

(以上)